

愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)

「中国学と現代中国学構築」公開研究会

モンゴル系中国人の視点から見た 中国学方法論

講師 Uradyn Bulag 氏

ニューヨーク市立大学准教授

概要：

中国における内モンゴルの位置はチベットや新疆とは異なると Bulag 氏は主張する。チベットや新疆に居住の諸民族は漢族に比肩し得る比重を持ち、そのエスノナショナルな運動は国内外に影響力を持つ主体的なものとして存在する。これに比し内モンゴルのモンゴル人は内モンゴル自治区内部ですら漢族に比肩し得る比重を持たず、それゆえその存在は「沈黙する辺境」の状態にあり主体性を持ち得ずきた。主体性を持ち得ない内モンゴルのモンゴル人研究者の視点から見た中国は、当然他の内外の研究者の視点と大きく異なる。ここではその違いを明確にし、その視点からはいかなる中国が見えてくるかを論じる。

2005年4月23日(土) 13:30~16:30
名古屋校舎 中央教室棟3階第1研修室

- * 講演は中国語の通訳あり。
- * 申し込み不要。

【主催】愛知大学国際中国学研究センター

【お問い合わせ先】愛知大学 ICCS 事務室

〒470-0296 愛知県西加茂郡三好町黒笹 370

Tel : 0561-36-5637 (内線 2862) Fax : 0561-36-5422 (内線 2869)

聴講無料